

表題 学部横断型副専攻プログラム「放射線総合科学」の開講について

特色ある取組

募集

弘前大学 学部横断型副専攻プログラム
副専攻「放射線総合科学」

被ばく医療連携推進機構 / 被ばく医療総合研究所

地域防災、エネルギー、放射線防護に関する知識を身に付け、
地域貢献やキャリア形成を目指してみませんか!!

防災士 + 弘前大学災害対応マネージャー + 副専攻

本専攻プログラムの目的

今後起こりうる複合災害について、過去の事例から災害予防、災害応急対策、災害復旧など、放射線及び関連する科学的知見に基づいて、被災者支援活動や被災地復興活動に貢献する地域の課題に積極的に取り組む人材を育成します。

被ばく医療連携推進機構が推進する被災者支援活動を通じて被災者・被災地支援を促し、放射線が関与する人々の被害を正しく理解するだけでなく、復旧のスピードアップにつなげることを目指します。この学修により、災害時や平時に原子力関連施設を有する地域の課題を正しく理解し、地域のリーダーとして教育・実践する力を養います。

副専攻「放射線総合科学」の特色

1 資格等も取得できる柔軟なカリキュラム構成

- Level 1 防災士と認定される「防災士」の受験資格が得られる(防災士は中・高専卒業後修得可能な資格)
- Level 2 卒業時に弘前大学独自資格「弘前大学災害対応マネージャー」の修得が可能
- Level 4 卒業時に放射線取扱主任者(放射線)に係る総合的な知識の修得が可能

2 学内外の専門家による授業

国内学歴・大学院	学外協力機関
<ul style="list-style-type: none"> 教育学部 理工学研究所 総合生命科学研究科 災害・被ばく医療教育センター 	<ul style="list-style-type: none"> 青森県危機管理・エネルギー総合センター 公益財団法人環境科学技術研究所 公益財団法人放射線影響協会 東北電力株式会社 原子力規制委員会(原子力規制庁) 原子力規制委員会(原子力規制庁)

3 専門機関へのインターンシップと成果報告会への参加

学外協力機関(青森県、原子力関連施設、原子力規制庁)へのインターンシップに参加し、貴重な経験が得られます。最終日には、学外の専門協力機関の前で成果報告会を行い自身の学修成果を報告します。

弘前大学被ばく医療総合研究所は2009年に設置され、2011年に発生した東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興支援活動に取り組んできた。その中で得た多くの学術調査や復興支援活動の経験を活かし、本学学生の教育プログラムに展開している。教育プログラムは、弘前大学の文理系を問わず全ての学生が取得できるよう副専攻の位置づけとした。プログラムの内容は、今後起こりうる複合災害について、過去の事例から災害予防、災害応急対策、災害復旧などを多角的に学ぶことで、青森県やこれと同様に原子力関連施設を要する地域の課題に積極的に取り組む人材の育成を目指すとともに、東日本大震災の災害の記録・記憶を次世代に引き継ぐこと、福島県における未成熟な理解による風評被害の払しょくに繋げることも目的としている。

授業の様子



期待できる成果・評価 など

- ① 自然災害、感染症災害及び救急救命講習などの学習があり「防災士」の受験資格(受験会場は弘前大学)を得ることができ、また、一定の科目を取得することで、卒業時には「弘前大学災害対応マネージャー」の称号も得ることができる。
- ② 放射線が環境や人体に及ぼす影響を正しく理解するだけでなく、喫緊のエネルギー問題の解決方法についても考察する。
- ③ 地域課題を正しく理解し、地域のリーダーとして指導・実践するためのスキルを修得する。
- ④ 卒業時には、「放射線総合科学」の修了証が授与される。

※広く履修者をもとめるため、個人の目的や学習レベルに応じた部分的な履修が可能(全開講科目数16科目,うち必修科目数8~9科目)

参考URL

- ・被ばく医療総合研究所HP
<https://irem.hirosaki-u.ac.jp/>
- ・被ばく医療連携推進機構HP
<https://remcp.hirosaki-u.ac.jp/>
- ・弘前大学学部横断型副専攻プログラム募集要項
<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2023/03/university-wide-education-program-2023.pdf>